

No. 101

公民館だより

平成9年4月

宮津市字由良
由良の里センター内

由良地区公民館

由良岳・森ヶ鼻道によせて(七)

館長 山下 清一

今年の冬は、例年になく雪の少ない冬でした。それでも、二月も半ばを過ぎると、由良岳の雪解け水が日増しに水嵩を増しながら駆け下っています。

田畑の土手、野道や小川、山裾のせせらぎには漸く目覚めた露の薫、芹や艾、名も知らぬ野草の若芽が、そとと春を覗き見しているようです。

早春の午後、弱い春の日射しに誘われ漸く膨らみかけた若い露の薫を摘みつつ

春来にけらし春や春

まだ若草は萌えずとも・・・

と、藤村の詩を口ずさみながら枯草を踏み分け田畑の土手や

野道を逍遙するのも、ちよつとした気分です。若い春の香、青苦く舌に残る風味、晩酌の友に早春の野の香りを味わえるのも、私の小さな楽しみの一つです。

ふと気が付くと私の行く手で五六羽の山雀(ホオジロ)が冬枯の枯草をつつきながら、こぼれ残った小さな草の実を忙しく啄んでいるのに出合いました。気の所為かこのごろ小鳥が随分少なくなつたように思えてなりません。

人家近くで棲息し、良きにつけ、悪しきにつけ、人との関わり深い雀の群が小さくなり少

なくなりました。冬から春にかけてやって来る目白、高い梢の啄木鳥、四十雀、梢高く、オキクニジュウシ、お菊二十四、と美声自慢の、まめまわし(イカル)、チュンチュンピーチュンチュンピーと水田の常連鶺鴒、河原鶺鴒や百舌の声もめつきり少なくなりました。

水田のつむぎ、里のシンナイ(山つむぎ)、田島(とらつむぎ)、山鳩(きじばと)や溜鳥となつた鶺鴒の姿も、疎です。

小学生のころ、冬になるとお宮の森や山裾の林を駆け回り、かご伏や挟み仕掛の(りくぐつ、てんじゆく)等で競つて小鳥獵に励んだこととてんじゆく一竿の仕掛で鶺鴒、シンナイ、少し大きい鴨等一日に七、八羽が捕れたことがあります。掛つた鳥を逃がさぬよう両手で握りしめたときの羽根や、羽毛の感触、嬉しさが今でも甦つて来るようです。十羽、二十羽と小鳥が溜ると焼鳥やミンチだんご、となり

食膳を賑わすのも、冬の日の楽しみの一つでした。

雉や山鳥の美しく優雅な姿は今はなく、森ヶ鼻川の川縁や背の高い雑草の中に潜んでいた真つ黒で嘴と目もとが真赤な、鳩より大きい鶺鴒、以前何度か急ぎ足で叢に隠れる姿を見かけましたが、今日、幻の鳥と化したようです。

今日、鳥類への手厚い保護の効もなく年々減っているようです。原因の解明が急がれるところです。

由良岳の谷間の残雪も日毎に細まり冬との別れも間近です。森ヶ鼻道から遠望する若狭の海も冬の青から春の日射を浴び青が明るく映えています。名も知らぬ野の草にも、寒い冬を耐えた小鳥たちにも、そして私達のすぐ傍まで春はやって来ているのです。

木漏れ日や

鎮守の森の鳩の声

行事報告

主事 酒田 治

●第十四回宮津市民卓球大会

十二月一日(日)

今年も、由良チームは宮津市最強チームとしてマークされるなか、選手一同堂々と戦い、昨年に続き優秀な成績を収めました。選手の皆様、ご苦勞様でした。

個人優勝 川崎 清氏
団体準優勝 由良チーム

●成人式

一月十五日(日)

宮津市で成人を迎えられた方は二四六人でした。

会場は若さと振袖姿の華やかさで一杯。

徳田市長からは、「宮津市の発展のため、皆さんの若い力を發揮して下さい」との祝詞。

どうか健康に留意され、それぞれの道へ歩いて下さい。

【由良地区で成人された方】

(順不同敬称略)

笠原 永和 綱本麻衣子 長尾 夕子
前畑つかさ 小松 亨恵 坂本 千穂
田村 真己 林 里砂 山口 忍
田中 恵子 松原 宏和 山田 洋子
山元 麻紀 上田かおり 中西 誠児
山田 純央 山田 知佳 岸田 博
岸田めぐみ 山下 智子

●第十二回人権学習会

一月十九日(日)

同和問題を始め、人種差別、障害者差別、いじめ問題等、あらゆる差別を解消するために、私達それぞれが学び、差別をなくする努力をしていかなければなりません。

昭和四十年八月に同和对策審議会答申が出され(国民的課題)として、現在も差別を解消する

ため、国の各々の機関及び地方自治体において取り組みが行なわれています。

でも実態的な差別は徐々に改善に向っているようお聞きしてはいますが、心理的差別はまだまだ根強く残っているとされています。

私達は一人一人が差別の痛みを自分自身のものとして感じられるように学習会等に出席していただいで学んでほしいと思います。

今回は、宮津市教育委員会同和教育指導員、内田良美先生に講演、同和啓発映画を市教委・河原主事にお願いたしました。講演の「人権を考える」の中で
・同和地区は一般地区より何かにつけて良くなる(逆差別論)
・差別はもうない、研修は差別をばらまく(研修無用論)
・私は差別をしていないし、する気もない(無関係論)

といった間違った考えをもっていられる方等々のお話の中で、

一番感じたことは、障害者問題で、これからは高齢者社会となつて来る。自分が高齢者になり、もし障害者となったとき、初めて人権といった言葉に遭遇し人権の尊さが分つて来るのではないでしようか。

講演の後、同和啓発映画、「春をまつ雪」を視聴しました。地区外より親の反対を押し切つて結婚した娘、色々な逆境を、地区の方達や友達、家族の絆により見事乗り越え、初めて自分の親元と姑・主人・子供ともども里帰りを果たした映画でした。意識は知らず知らずのうちに心の中に偏見といった見方で入り込んでしまいます。どうか少しでも多くの方の参加をお願いし、正しい認識を学ぼうではありませんか。

●四部対抗男女バレーボール大会

二月二日(日)

暖冬とはいえ寒い一日でした。体育館では開始前の柔軟体操を榎本さんにお願ひしました。冬の間、常に体を動かしてないので思わず悲鳴を上げる方も。

いよいよ試合開始。各地区の選手席では自分達のチームが出ると突然賑やかな応援に変わり、好プレー、珍プレーに拍手喝采、大会を大いに盛り上げていただき、楽しく一日が終了出来ました。結果は次のおりです。

男子の部 女子の部

- 優 勝 三部 三部
- 準優勝 二部 二部
- 三 位 一部 一部
- 四 位 四部 四部

●四部対抗囲碁大会

二月二日(日)

当日は、小学校体育館ではバレーボールが行なわれ、里セン

ターでは囲碁大会が行なわれました。

会場では、開始前の談笑とは打って変り、喰い入るようじつと盤を見つめる真剣な目差し。対局が終りホッと一息入れた顔。横から見ていて神経の疲れる勝負だなーと感じました。

選手の皆様本当にお疲れさまでした。

- 結果 (同率ジャンケン)
- 優 勝 二部
- 準優勝 四部

●生涯学習講演会

(婦人会共催) 二月二十三日

生涯学習―学校教育のみが学習ではない。学校教育を終了した後、老後に至るまでが本当の学習(生涯学習)であると言われていきます。

今年私達が日頃、何かとお世話になっている、四方寿朗先生にお願ひして、「成人病の周辺、最近の話題」について講演をしていただきました。

講演の中で、

△看護について―親が病人を大切に看病してあげたら、子供は必ずその姿を見ている。

老後きつと子供が大切にしてくれる。

△脳梗塞は明け方に多い。朝起きたら手が動かない、便所

にも行けないなどの状態。

△脳梗塞を防ぐ方法
寝る前に水を飲む(小便に起きたら又水を飲む)

朝起きても直ぐに立ち上がらない。

五分〜十分程度軽い体操をする。

◎がん予防の切り札

◎健康保持の大原則

- 適当な栄養
- 適当な運動
- 適当な休養
- 生活態度 (養生)

◎人の一生

遺伝・生活態度・運

◎どんな趣味、遊びが脳の老化を防ぐか。

(極めて高い)
自転車旅行・未知の女性との交際・手工芸・絵・スポーツ等

(高い)
推理小説・碁・将棋・生け花・カメラ・孫に教える等

(どちらからと言えば低い)
映画・カラオケで歌う・団体旅行等

(低い)
テレビを見る・音楽を聞く・ボケッと魚釣り・老夫婦の会話等

以上四方先生流の楽しい中に、ウンウンと頷けるお話でした。先生、どうもお忙しいところ有難うございました。

成人を迎えて

前畑 つかさ

成人式―。この日を迎えるまで憧れでした。しかし、いざこの日を迎えると大変重要な節目の日であることに気付き、身の引き締まる思いがしました。

一九九七年一月一五日―。前日から心配されていた天候も私達の成人を祝福してくれるかのように晴れわたってくれました。

久しぶりに友の顔を見、笑い合いながら思い出話に花を咲かせ、最高の成人式となりました。責任―。この言葉がこれから私達の全ての言動について回ってきます。何となく窮屈な気もしますが、これからは一人の大人として、自覚と責任を持ち、生活していきたいと思えます。二十歳―大人という世間の目に、まだ言動が伴っておらず、考



え方の甘いところや幼いところもあるかとは思いますが、家族や地域の人達に助言をいただきながら、一日も早く“大人”と言えるにふさわしい人間に成長していきたいと思っています。まだまだ未熟ではありますが、自分達の生き方には常に胸をはっていられるように各々のペースで努力していきたいと考えています。

四部対抗バレーボールに参加して

森田 弘美

二月二日。恒例の四部対抗バレーボール大会が開催されました。例年通りとても寒い日で、私事ですが今年“本厄”を迎える為、ケガのない様普段よりも準備運動に力の入ったスタートでした。昨年に続き二度目の参加でしたが、第一試合までの待ち時間が長く感じた事は、今回も同じでした。九人の中で自分がコートに立ち、皆の視線を受け失敗したらどうしようという不安で、寒さと共に身体が震えましました。しかし、いざ試合が始まれば、そんな事すっかり忘れ無我夢中でボールを追いました。初めぎこちなかった九人も、少しずつ声も出、はつらつと動けるようになりました。途中、ストリート勝ちできずヒヤヒヤした場面もありましたが、何とか

勝ち進み、気がつけば優勝できた、という感じでした。男子の部も今年は、皆絶好調で、チームワーク良く優勝する事ができました。今年はアベック優勝という事で、試合後互いに喜びを分かちあえた大会となりました。大会を通し“どのチームもレベルアップし、チームワークがとれてきたこと”そして“若い人の参加が昨年に比べ何名か増え、新風がまきおこっていること”の二点を感じました。今後も益々若い方の参加が増え、大会が活気あるものとなるようになればなあと感じました。最後になりましたが、事前よりの選手集めや諸準備、後片付けにいたるまでお世話下さった役員の皆様方に心より御礼申し上げます。

四部対抗バレーボールに参加して

森田 浩志

黒い小石と白い貝殻

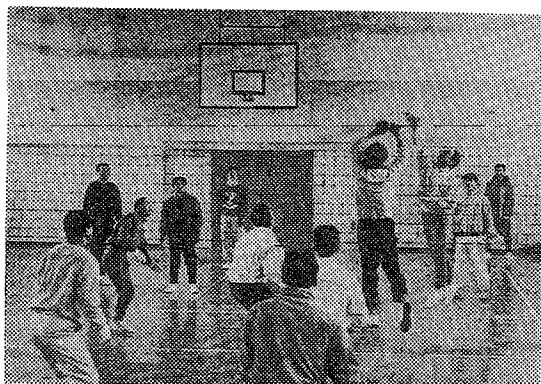
— 四部対抗囲碁大会に参加して —

飯澤 登志朗

由良に来て早や二年が過ぎました。これまで数々のスポーツ行事に参加させていただき感謝しています。駐在所の所在地の関係で浜野路地区から参加させていただいていますが、バレーボールは学生時代以来で、内心を引っ張るのではないかと少々不安な気持ちでした。

結果は男女共に浜野路の優勝となりましたが、実力差は無く、試合の流れ次第と言う感じがしました。色々なスポーツの中で、最もチームワークが要求される種目だけに、チームのムードが大切であると思います。地区民が互いにふれあう場としては、大変意義深いものであり、地域の活性化の為にも、若い人もどんどん参加して欲しいと思います。

また、健康管理の面でも、スポーツをすることは大切です。必要に迫られてやるよりか、楽しくやりたいと言う気持ちがあります。楽しむスポーツとしては、バレーボールは最適で、年一回ではありますが、大変有意義な大会であると思います。



碁が中国から渡ってきたと聞いているが、ではいつごろ登場したかは不明である。

炭野恒広先生の言を借りると「碁は遠い昔、山に住む若者が長旅の末浜辺の村にたどり着き美しい娘とめぐりあったのが始まりだった。山と浜では言葉が違う。しばらく黙りこくっていた二人だが、やがて若者がふところから不思議なものを取り出した。山の川で拾い集めた寶石のような黒い小石、それを一つ一つ砂の上に置いていった。

そして一手一手に應えるように娘は袂から白く輝く貝殻を……」(囲碁研究から引用)

退職を機に由良囲碁同好会へ入会したが周りは強い人ばかりである。そして二月二日公民館主催の四部対抗囲碁大会に参加

したものの風邪でセキが止まらず(言い訳にしたいくないが)午前中でスタミナ切れ、何とか勝ち越したが気力・体力とも限界である。

優勝は例年どおり?二部となつたが最後まで優勝の行方が判らない混戦、熱戦であり、おもしろい大会であつた。

碁は負けてもよい。自分の納得出来る負け方であればそれでも楽しいものであるが、納得出来る負け方が出来るまでにはまだ勉強不足であると痛感している。

先述したように浜辺の砂の上に置いた黒石に應えるように白い輝く貝殻を並べるようなロマンのある雰囲気ではないが、脳の老化を防ぐために生涯学習としてこれからも碁敵を求めて楽しみたいと考えている。

表現力の育成

——正しい話し方を育てる——

角尾 誠

後わずかで平成八年度も終わりを迎えようとしています。

縁あって由良幼稚園・小学校にお世話になって以来、早一年が経とうとするわけですが、その間のPTA役員さんをはじめ、会員の皆様には園・学校教育に対する並々ならぬご理解・ご支援をいただきましたこと厚くお礼申し上げます。

さて、由良の子供達は、豊かな自然環境の中で、明るく素直で何事にも真面目に取り組みとうとします。しかし、自分の思いや考えを相手に伝えることや筋道を立てて考えるという表現力や思考力が少々弱さがみられるのが実態です。

そこで、由良小学校において、内容をしっかりと読み取り、表

現力豊かな子供を育てたいという願いのもとに、昨年度より国語を重点研究の柱に置き研究と実践を進めてきました。

特に、表現力の育成については、これからの国際社会を生き抜く力としては、自分の主義主張を正しく相手に伝えること、又、相手の意見をしっかり聞き、考えることが大切になってきます。

今の社会、単語を並べれば相手が意を解して言わんとするところが伝わる非常に便利な世の中？

例えば「おーい、お茶ー」と言えば、すぐにお茶が出てくる家庭も多いのではないのでしょうか。

お茶がほしいのか。いらな

のか。最後まで伝えたいことを正しく言わない。即ち、正しい言葉の使われ方がされていないのではないのでしょうか。

自分の考え、思いを相手に正確に伝達するには正しい日本語でしっかりと話し方が必要になります。

今年度、「話し方」「声の大きさ」を各教室に掲示し、正しい話し方、場所による声の大きさの使い分けを指導してきました。又、「発表の場をより多く設定」するなどして人前で話す機会もより多く持ちました。その結果、遅々たる歩みではありましたが、「積極的な発表ができるようになった」「優れた表現方法を見せるようになった」など成果があらわれてきました。

表現力とは「目に見えない感激を人の目に見えるようにする」などと言われています。いづれにせよ言葉を正しく伝えるためには、正しい言葉遣いによる表現を心がけたり、びつたり

合う言葉を選び適切な言葉遣いをしたり、言葉の種類を豊かにしたりするなどが大切になります。

しかし、学校だけで身に付くものではありません。家庭・地域が一体となり指導し、心がけてこそ生きて働く力となるものです。家庭での会話を今一度見直していただけると嬉しいですよ。

正しい言葉遣いによる表現を心がけたり、びつたり合う言葉を選び適切な言葉遣いをしたときには、子供を認め、誉めてやることが第一です。そうすることによって子供は変わるものだと思います。そして、更に意欲を持たせるためにも、学校・家庭・地域が一人一人の子供に「豊かな生活体験」「優れた観察力」「感動する心の育成」「正しい言葉遣い」そして、「言語環境の整備」を心がけることが必要になってきます。

自治学級

◎館長挨拶

全国で過疎化が言われて、早三十数年が経過しました。

現在も色々な対策が施されていますが、なかなか成果が現れていません。

本日は、市会議員で由良自治連会長の山下氏に講話をお願いし、皆様方で由良地区のこれからを考えていただきたく思います。どうか活発なご異見を出していただきますようよろしくお願い致します。

◎山下市会議員

(由良地区自治連合会長)

例年になります。この場をお借りして市政の報告をさせていただきます。有難うございます。

昨年大きな事件がありました。今年もオレレンジ共済、ペルー人質事件、ナホトカ号重油流出事故等、色々な事件・事故

がおきて来ます。

宮津市も、第四次総合計画により着実に市政が展開されているところですよ。

本日は、宮津市政の展望と、由良地区の施策等について報告させていただきます。後、皆様方と語り合いたいと思います。

(一)ナホトカ号重油流出事故

宮津市は長い海岸線があります。現時点では流出油の漂着は幸いにも確認されていません。

ロシア船籍のタンカー「ナホトカ」号は、一月二日に沈没。市は一月八日に流出油災害対策本部を設置し海岸のパトロールを実施すべく、各地区に協力要請を依頼した。

要請を受け、由良地区では、一月十四日各団体長と協議、了解を得て、一月十五日より海岸線のパトロールを実施しました。

その間、由良地区及び、他の地区においても重油の漂着は

認められず、二月十一日よりパトロールを一時中止した。

(二)平成八年度

宮津市政の重点項目と、主要事業実施状況。

◎平成八年度は、次の項目で行政を推進して行きました。

・若者の定住するまちづくり (工場の誘致)

・健康・長寿のまちづくり (安心・生き甲斐)

・道路整備の推進 (京都縦貫道)

・私達の住む、生活環境施設の整備 (東部不燃物処理場・下水道)

・地区産業の振興、教育の推進 ◎実行された主なもの

・山陰線、並びに北近畿丹後鉄道の電化開業。

・地域の文化……三上家購入

・こころの窓の開設。

・悩みごと相談 電話三二五五六〇

・養老バイパストンネル貫通。
・休日の応急診療所開設 (内科、小児科) 電話四六六三三〇

・はままちの活性化

(仮称)丹後マート 九年七月オープン予定

・パーキングはままち立体駐車場 九年六月オープン予定 (駐車台数・普通車四五〇台バス十六台)

・二十四時間体制による、在宅介護支援センターの建設。

(天橋園内)九年四月開所予定

・東部不燃物処理場(栗田小寺区)八年、九年、十年の三年計画で建設。

・京都縦貫自動車道。全線の工事については承認されている。

綾部〜地頭 十二・九km

地頭〜宮津 十二・九km

九年度中完成予定 十二年度を目標

◎これからの取り組み

・はままちと、新浜(国道をまたいで)アーバンデッキ(陸橋)が計画されている。

・京都縦貫自動車道は、二十一世紀初頭全線開通に向けて前

進している。

さらに、宮津と山陰方面を繋ぐ、「鳥取・豊岡・宮津」自動車道が、七年四月、宮津と野田川間が整備区間に指定、七年八月に野田川と網野間が、調査区間に指定され、日本海沿岸の高速自動車道が動きだした。

健康長寿のまちづくりを進めるため、保健・医療・福祉を一体とした施策をめざしている。

六十五才以上の方 二四・五%
宮津市で寝たきりの方 一五〇人
一人暮らしの方 七八〇人

若者の定住は市として大きな課題である。

企業の誘致は、栗田獅子に計画中である。

農産、漁業、商店の活性化を行い、若者が少しでも帰って来て定住できる条件造りを進めている。

水道、下水道、不燃物処理等(生活環境の整備)は今後共重

要な課題である。

安心して住める町づくりのため、防災体制の充実。

(災害に備え、備蓄倉庫の完成)

水道、下水道については、由良地区のこれからの課題のなかで話していきたい。

ごみ処理については、色々ご協力を願っているが、資源ごみについては、包装容器リサイクル法の施行にともない、

九年四月一日より、新しく紙パック、ペットボトルが加わります。大変ですがご協力お願い致します。

以上市政の大略を報告させていただきます、あと由良地区の報告をさせていただきます。

◎平成八年度

由良地区事業の状況及び課題

六月に由良地区における今後の振興、環境整備等について、各団体長を交え協議し、その中より重要課題として次の六点を市長宛提出し要望致します。

した。

一、由良簡易水道施設を拡張して将来の地区諸事業に対応出来るようお願い致します。

二、地区民の声が大きく高まっている。地区の下水道整備を早期に着手していただくようお願い致します。

三、市営・府営住宅を建設し、地区の活性化が図れますようお願い致します。

四、地区に福祉サービス施設の建設を具体化していただくようお願い致します。

五、宮津市の特産、由良みかんの振興と加工品の開発、商品化に、ご指導ご援助をお願い致します。

六、泉源発掘等による観光振興、由良川、由良岳、奈具海岸、遺跡等自然景観を活用した地区発展にご指導ご援助をお願い致します。

以上の要望について八年九月に回答がありましたので次に単記します。

(一) 昨年十月、ヘリコプターにより泉源等の調査を行なっている。

現在の簡易水道の能力は、一〇トンで使用水量は、夏場一〇〇トン

通常一三〇トン、であり、水源については調査の結果有望な水源は数箇所ある。

(二) 下水道の設置は各地区より要望が出ている。

市は、由良地区においても、国などの補助事業で行なつたらいいか検討している。

自治連としては……地区の皆様と連繋を取り乍ら進めて行きたい。

(三) 市営住宅建設については、今後更に充実の必要があるが、由良地区に於ては検討してみた。

(四) 由良地区に老人福祉サービス施設を要望しているが、市は具体的な検討をしていただいている。

(五) 由良地区のみかんは一部減反

して来たが、まだ三十ヘクタールはあると思われる。三月十五日に、みかんを利用した、マーレードの加工講習会を行う。

六)泉源については、探査業者よりの報告待ちですが、大きな期待をしている。

以上六項目の回答です。

・海岸改良工事

海岸環境整備事業により、脇地区、松本釣具店裏に階段式タイル張りの護岸工事が行われた、後も継続される。

・道 路

イ)国道舗装工事が側溝工事も含め、四方さんより丹後鉄道ガードの先まで完成。

又、下石浦～上石浦地区間(モミジの里公園)も完成。

ロ)上石浦地区で(国道)高齢者にやさしい道路づくり(歩道に立木)が行われている。

・下水道(水洗トイレ)
六月に下水道について勉強会を開催した。

下水道は便利な面もあるが、整備(工事)が施工されると、お金も負担しなければならぬ。充分話し合いを行わなければならぬ。

各地区で機会があれば話に出してほしい。

・庄内由良より当地を来訪され親交を深めた。

(八年八月二三日・二四日)

・大ぐり岩(汐汲浜)に松を植樹した。(自治連合会、脇自治会、実業会)

・観光祭(八年八月一日)

市のまちづくり助成事業費をもとに「丹後由良フレアイコnsaート」を計画

バンドをお願いして由良浜、由良神社において、海水浴のお客様と共に楽しい一刻を過ごした。

・有害駆除

上石浦地区で一〇〇キロのクマを捕獲したのを始め、有害鳥獣の駆除に努めた。

◎由良地区の課題については、

前記の六項目で回答もいただいているが、実施に向けて、更に私達(自治連合会)も地区の皆様と共に由良地区の発展を計って行きたい。皆様のご協力をお願いしたい。

「質問◎ 意見◎ 回答●」

◎みかんの加工について、グループが結成されたそうですが、その経過は。

●加工小委員会(農林課)のサイドで、自治連合会へ、グループを作りみかんの加工による試作を試してみたらどうかとの申出があった。

生産組合から、組合で取り組ませてほしい旨申出があり、生産組合にお願いした(マーレード講習)

グループは各地区五名程度をお願いして講習会を開催した商品は、まだ第一段階で、商品化販売等には色々と研究等していかねばならない。

又、グループも多くの方の賛同を得ねばならない。

◎由良浜のテトラポットを沖に移動したら、砂の移動はどうなるか。

●テトラを沖に移動したら砂が取られるんではと心配ですが、問題は景観の良い由良浜にすることが大切です。

工事の説明会でも、砂は大丈夫と言っている。

◎由良地区にも、老人ホームの設置(モミジの里公園)をお願い出来ないか。

●老人ホームをと云う事については、今のところ厳しいのではないか、老人福祉サービス施設を目標にしたい。

考え方として、家庭での介護をしてほしいと考える人も多い。又、二十四時間体制の在宅介護支援センターが建設中である。

◎由良みかんは抜群の味がする。由良みかんを守っていくのに減反され面積が少なくなっているが、由良みかんの今後はどうなるのか。

●一時五十ヘクタールぐらいあったと思われるみかん園も、今は減反で三十ヘクタールぐらいと思われる。みかんの場合は機械化もなかなかむずかしく、適期に消毒もしなければ商品価値がなくなるといった難点もあり、後継者の問題も含め今後も厳しい見通しを思っている。

◎庄内由良と丹後由良について、庄内由良の国民宿舎は、由良国民宿舎となっているが、由良の国民宿舎は、丹後由良となり、庄内由良は先へ先へと何ごともしやってくる

(国民宿舎が出来たのが、庄内由良は早いので由良となっている。当由良は後のため丹後がついた。)

●お互いに交流を計るなかで前進して行きたい。

◎脇、宮本間の浜砂の中に、イクリが多量に混ざっているがどこから流れて来ているのか。

●石材工事？はつきりしたことには分らない。

◎脇公園の石段下の所管はどこか。

●所管は水産庁であり、漁港となつているので、石段下の護岸については中々むずかしい問題である。

◎由良川の水流について建設省は、流れを良くするため曲りを取ることはかり考えているが、水の流れは迂回しながら流れることが、水の淀むところが出来、そこで生物が繁殖し水質も良くなる。

◎下水設備、過疎地にも出来ているが、由良の場合どうか。

●補助金が、農林省、建設省、厚生省等多岐に分れている。そのどの省の補助事業でやるのが一番良いか考えていかねばならない。又、推進して行く場合は皆様と良く話し合い乍ら考えて行きたい。

◎まだまだご意見等おありと思われませんが時間の関係もあり終了しました。以上要点のみ報告させていただきます。

山下氏にはお忙しいところ、毎回講話をお願いし有難うございました。

出席の皆様又次回もよろしくお願ひします。

川柳

ハイドには成れぬ自分に甘んじる
振り向けば側にあなたの居る安堵

坂本 妙子

老ボケの母の介護に泣き笑い
サロンパス貼って多忙に立ち向かう

山下 節子

花に酔う生きる者皆生氣満つ
風やさし農地は命種を蒔く

山田 寿美

母の声ぬくい受話器の余韻抱く
春息吹く里の香とどく都心まで

藤本 喜代子

私は尊厳死を選びたい

中西 八重子

今回の生涯学習講演会は、久しぶりに四方先生のお話ということで、老いも若きも含めたくさんの人が集りました。

最近話題になっていていることについて、詳しい資料を示しながら冗談も交えてわかりやすく話していただきました。

特に興味をひかれたのは、尊厳死についてです。

身内や親戚等でこうした場合に直面したことはないの、何とも言えませんが、今の自分自身としては、尊厳死をめざしたいと思います。

ただ、植物状態に陥った場合、肉親としてあきらめられるかと言われると悩んでしまいうです。やはり万が一という望みを捨てきれない気がします。

また、みんなが熱心に聞いて

いたのは、脳の老化防止という点でした。痴ほう症にならずに、長生きしたいと願うのは誰しもです。

やはり基本的には、適当な栄養・運動・休養という生活態度が大切だということでした。

それに加えて趣味・遊びも大きなウエイトを占めるといふことから、遊び好きの私はすつかり気をよくしました。

自らが主体的に取り組む遊びなら、ストレスの解消と老化防止につながるものと確信し、これからも(?)しつかり遊ぼうと心に決めた次第です。

親子ウォークラリー

—「京の府民大学」対象講座—

中西 夏江

さあ出発 光ふる道 早春の由良コースをゆくやさしみてゆく

ウォークラリーの問いに答えん碑の刻字 恃む想いに仰ぎつつ読む

狛犬の左右のちがい見出して少年は今 阿吽を解す

「快慶」と互みに言いて書く少女 春を湛うる境内にいて

厨子王が伝説のあわれを今になお包みて由良岳はさやさやと 春

観察ゾーンの駅舎ぐるりと見回せばあとかたもなき藤棚が頭つ

不動山の名水清に「おいしい」といのちやさしく飲む子らの声

容易くはあらねど藁の縄を縛う時間ほの甘し この体験の

安寿の別れを思う天地にかなしみ深くうぐいすは啼く

野の道につくしも摘みて充実のウォークラリーのゴールに入らん

一年をおえて

婦人会役員 Y女

今、地域でいろんな活動が難しくなってきたように思います。

人と人とのつながりが少しずつ薄れ、個を追求する部分が大きくなってきたこともあるでしょうし、みんなが忙しすぎるということも少しは関係があるかも知れません。

そうした中で婦人会活動を進めることは、大変に気の重いことで、役員になった者は運命とあきらめるしかない、そんな思いでスタートしたものでした。

三月末に前役員から引継ぎを受け、昨年度の活動報告を見せてもらった時、余りの日程の過密さに気が遠くなりそうでした。が、「出来る事しかできないのだから。」と四役で話し合い、支部役員さんにも理解と協力を

お願いすることにしました。

四月二十九日の総会から始まり、五月の社会見学旅行や六月の宮津市駅伝大会の弁当づくり等を取り組んでいくうちに、役員も気心がだんだんわかってきて、役員会でもいろんな意見が出るようになりました。

そして、八月の盆踊りや九月の敬老会などを取り組む頃には、不思議なことに、最初に抱いていた気の重さが少しずつ取れていたのです。

休日を婦人会活動に費やすことは、多少なりとも覚悟が必要でしたが、忙しい行事が終わった後の充実感は、そうしただけ以上にいいものでした。

十月のみやぶ女性スポーツフェスティバルは、最大の取り組みで、七十二名の会員が参加

しました。

宮津市内の婦人会組織が、各地域でなくなったり、縮小されたりで、今や由良婦人会は大きな役割を担わされています。

その意味でも、参加者の多さと団結の強さ、また、本部要員としての参画など、期待に十分応える活躍振りでした。

成績はともかく、和気あいあいとした雰囲気は、夜の反省会でも大きな盛り上がりを見せ、コーヒートとケーキで話に花を咲かせました。

十一月は、婦人会活動の正念場とも言える季節で、地区文化祭、宮津市の農業祭など婦人会の総力をあげての取り組みとなりました。

その模様は、以前に公民館だよりを通じて報告しているところですのでここでは省きますが、快い疲れと、やりきったという充実感、それに地域に根差した婦人会を実感した次第です。

二月の総会では、生涯学習講

演会も兼ねて、四方先生のお話を聞きました。

そして、一年間の活動報告と決算（見込み）を承認していただき、無事全日程を終了することができました。

一人一人の会員の皆さんの協力がなければ、こうした地域の取り組みを進めることができません。最初に感じた重さを取り払ってくれたのは、こうした協力体制と、つながりを大切にしていきたいというみんなの気持ちだと思えます。心から感謝するとともに、気持ちをやさしくにしたいと願っています。

今、終わるに当たってどうしても言いたいことは、由良婦人会の定年制については、過去のいろんな経過もあり、その時々で最良と思われる方法で決められてきたように聞いていますが、今一度みんな考えてみてはどうかと思えます。

みんな若くて、元気でやる気十分なのでありますから。

四部対抗囲碁大会

大石 俊雄

去る二月二日、午前九時より恒例の四部対抗囲碁大会が始まりました。

各支部から、五名ずつ、合計二十名が一堂に会し、なごやかなうちにも、真剣な対局が開始されたのでした。

今まで、二十名全員が参加されたのはあまりなかったのではないかと思います。

囲碁を楽しむ人も、有段者から級位者、初心者まで棋力にかなりの差が有るものの、まだまだかなりの人員が居られるのではないかと思います。

NHKの朝の連続ドラマ「二人っ子」では将棋がテーマとして将棋の棋士が登場して、かなりの人気を博しているようですが、囲碁をテーマにしたドラマも作られたら、どうかと思います。

ます。しかしこれはあくまで、ドラマで有り、プロ棋士の話です。

アマチュアはやはり楽しく出来れば良いのであって、そんなに四角張る必要はないと思います。囲碁は最低二人で打てるゲームですし、余裕を持って打てれば良いと思います。

それはさておき、大会の方は、一部、二部、四部と勝数が競り合って来て、最後は二部と四部が勝数十四で同率となり、ジャンケンで勝負を決め、二部が優勝したような結果になりました。

このように囲碁は石を置いて、ハンディをつける事で対等で打てるので、是非皆さんも囲碁を覚えて、有意義な人生を送って下さい。

今回の由良用堤防建設計画について

四方 寿朗

去る三月四日由良の里センターに於て宮津市建設部長、土木課長を交えて、建設省近畿地建福知山工事事務所による由良川地域水防対策計画の説明があった。国道より川側の住人の関係者として私も参加した。

由良から三〇km上流の福知山市下天津まで幅三〇米の堤防をつくる。河口付近では左右堤防の間隔(川幅)は五百米欲しい。置は現在の河岸線が原則だ。国道側へ三〇米の用地買収に協力願いたい。昭和三十六年大野ダムの完成後は、洪水は減少した

とはいえ、由良川の堤防整備率は、まだ三〇%弱で平成二年九月の台風十九号の出水でも、依然として氾濫被害が発生している。建設省では三十年に一度の洪水―昭和五十七年程度―を目

標に堤防の位置や高さを考えている。下天津から由良までの間、川に近くて住家の少ない地区は宅地の嵩上げをする。川から少し離れて住家の多い地区では、築堤によつて防衛することを基本方針とする。石浦、由良は後者である。築堤は建設省の事業だ。膨大な予算が必要なので、長期間の事業となる。凡そ以上のような説明であった。地元の出席者は約三十人。質疑応答の主なものは、

Q 福知山から由良までの落差はA 十三米

Q 川の上流に堤防を造れば洪水の際、当然下流の水量も変化してくる。それを考慮にいれて、計画しているか。

A 当然考えている。
Q 建設省は上流の住民を洪水か

ら守るためと言って、十数年前に城島の撤去工事をした。それを途中で中止し、竹の茂った土の島が残ったままだ。現在まで放置されていて、治水には何の役にも立っていない。洪水を防ぐと言うなら、こんな堤防よりさきに先ず城島の撤去工事をすべきだ。

A 返答らしきものなし

Q 昭和五十七年頃海岸の浸食がひどく、地区民がその対策に苦慮していた頃、建設省は由良川治水のためと称して、河口での砂利採取を続けた。

「河口の砂を採るから浜の砂が減る」と我々が主張しても「河口の砂が何処から来るのか分からない。現在まだ調査中だ」と調査課長は返答した
あの調査の結果は？

A 返答らしきものなし

Q この地区では由良川の増水で家屋が被害を受けた事は殆どなく、極言すれば土地を提供してまで堤防は造って欲しく

ない。恐ろしいのは昭和四十七年九月のような高潮だ。この対策を先ず考えて欲しい。又、集中豪雨による山からの鉄砲水の被害も無視出来ない。A 上流が水害で苦しんでいるのに、堤防は由良だけ必要ないというのは地域エゴだ。

Q 海の資源を育てる源は、上流の山の落葉樹林と、川の岸辺に生きる植物や微生物だと言われている。由良川と流域に暮らしてきた住民との関わり合いは、洪水だけではない。現に広島の牡蠣養殖業者が、仕事の合間に上流の山に落葉樹の植林をしているという話を聞いた。もつと広く大きな立場から由良川の将来を考えて欲しい。

A ?

以上のような事で説明会は終わった。
そこで私は思い出す。昭和四十七年九月十九日の高潮災害の後、我々の防潮堤建設の切

なる願いは、福知山地建に全く無視された。しかし昭和五十七年十一月突然地建は由良川堤防建設計画を提示してきた。国の基準に則った同じ建設省の計画なので、参考までにその要点を私のメモから述べる。費用は堤防一米あたり百万円、幅三十米、これが一級河川の基準である。鉄橋から下は土地の提供は不要、これで毎秒五八〇立方メートルの流量に対応するため川幅は五〇〇米必要だ。堤防の天場は六米、高さは三、九米鉄橋より下は高潮を考え四、二米。(殆ど鉄橋の線路の高さ)用地買収の単価は計画決定後の話になる。

以上

昔、上流の和知で天然鮎が一日に一万匹獲れたことがあるという。私は縁あって由良川のほとりに、由良川と共に暮らして三十九年経つ。その間、経済大国と引き替えに由良川の自然が

どれだけ破壊されたか。今度の計画は子々孫々にまで及ぶ大問題だ。厚生省、大蔵省、建設省：今のお役人が「国民のため」と言っても私は信用しない。二三年で皆どこかへ転勤する人達だ。膨大な予算をかけて折角つくっても、いろいろ物議をかもしている長良川河口堰の例もある。新聞によると、「東京の荒川では河川の改修や環境保全の構想策定に多くの住民団体が参加している」とある。又今日もらった資料にも「この計画は宮津市も参加した由良川地域水防対策協議会で合意されたものです」と書いてある。しかし私たち一般住民は、この重大な計画を今月初めて聞いた。肝心な由良の当事者を外しての宮津市の合意など、民主主義の現代、私には到底納得出来ない。由良地区にとつてどうすることが、一番幸せなのかを、由良の皆で考えよう。行政改革は、なにも永田町だけの問題ではない。

農業Uターンへの道

森川 耕一郎

「人生八十年」、六十才で定年退職しますと、二十年の残り人生が用意されております。この残りの人生を如何に過すかは人各々ですが、私は定年を迎える四・五年前から、特に強く意識するようになりました。退職後も会社勤めをするのか、或いは気楽に晴耕雨読の人生を送るのか、この二点が私の脳裏から離れませんでした。先ず一点目ですが、社会人となつてから今まで、会社の組織の中で管理され、会社の敷設したレールを無我夢中で走り続け、「勤務中は仕事以外の事は考えるな、ただ仕事一筋に没頭せよ」、このような厳しい命令の下に何十年もの間自分の人生を費して来ました。若し、再就職しても、会社組織の中の一員として、当然ノルマ

は課せられることになり、年齢的に能力の限界が生じ会社にとつてはありがたい存在となることを思う時、次なる二点目の人生を選ぶことが良いのか、会社の厳しい組織管理の世界から一転して、趣味を生かした老後は、真に、「すばらしき老後の人生かな」とですが、残された二十年余の永い過程を考えます時、年金を当てにしたマイナス指向の生き方では、あまりにも無策な考え方ではないだろうか。

生き方を決める事が出来ました。

先ず、定年までに、趣味の園芸から採算の取れる園芸に出来るよう実習期間と決めました。

実習期間中は会社に勤めながらでしたが、府の普及員、農協の技術員や、エネ研の試験農園の指導を受け、或る時は実際に取り組んでおられる先進農家を訪問して実地指導を受けました。退職した現在はこの実習期間中に学んだ技術を生かして、

導のもとに、種類ごとに各部会が結成されており、栗田、日置、上宮津の支所に集荷場が設けてあり、京阪神地方に出荷する作物は、この集荷場で厳格な検査を受けて規格に合格したものを出荷します。

宮津市の特産物と取り組んでおります。今、私が栽培している主なものは、ストック、盆と秋の小菊、日扇と野菜では山の芋が中心で、これらはいずれも、京都生花市場と青果市場から産地として認定を受けている作物です。市場が要求する市場性の高い品種に加えて他府県のものより立派な作物が要求されるために、常に、京都や大阪の市場見学も欠かす事は出来ません。

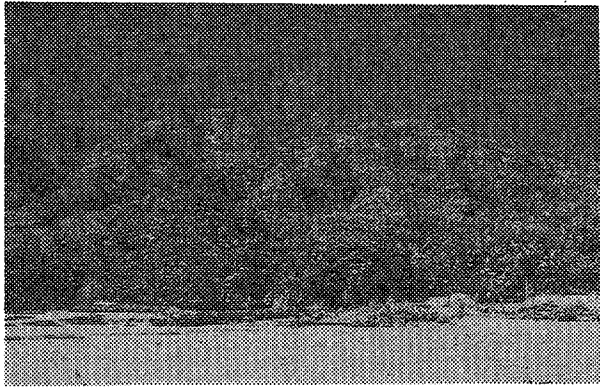
私が一番大切にしているのは、各部会ごとに集る集荷日の時です。その場で各自の生育状態や今後の管理について勉強会が出来ることです。真に、「話し合う」、「支え合う」、いのちを燃やし合う、そしていくつになっても学ぶ心をもつ生涯学習の根幹の場となることです。

定年を数年後に控えた或る日、妻に「定年退職の日が目の前に見えて来たよ」と話しかけますと、「永い間ご苦労さんでした。退職後はゆっくりと充電して好きなことをして過ごしたらわ」、この一言で定年後の自分の

北海のサケは、再び生れ故郷に帰り一生を終える、私もサケに見習って退職後は農という川にのぼり一生を終えたいと思っております。

これらの花や野菜は農協の指

同業者のほとんどは定年者六十才以上の人達ですが、幾つになっても出来る小力農業と、楽しく儲ける農業の実証なくして目的達成なし、……と、昨日も



自慢の花を囲みながら、リラック
クスできるひとときを過ごすこ
とが出来ました。このことが暮
しに潤いを与えてくれていま
す。
山あり、川あり、そして海あ
り、こんな自然がいつばいの中
でまだまだ働ける、と退職後の
Uターン農業に精を出しており
ます。

松有操則歳寒不凋

無影樹下永劫清凉

昨年、当寺晋山式を記念して
本堂に柱掛一对を御供えしてい
ただきました。それに表記の
写真の禅語が書かれておりま
す。

今回公民館よりその意味を、
とのお話がありましたので簡単
にその意義を述べたいと思いま
す。

右側は「松に操あれば歳寒に
も凋しぼまず」と読みます。

松はおめでたい木の代表とし
て称えられ、「松に古今の色無
し」「松樹千年の翠」という言
葉を耳にします。柱掛けの言葉
もそれと同じですが、そこには
「操有れば」の言葉が入っており

ます。松を寺、或は自分の家庭
と考えてみれば意味がよくわか
ると思います。皆が力を合せ、寺
なら歴代の和尚に受けつがれた
法をしっかりと護り修業をつむ。

各家庭においては先祖から受
けつがれた精神を受けつぎ毎日
を正しく生き、それを子孫に伝
えいく、そこに幾年の歳月を経
ても、どんな逆境にあっても動
ずることなく、いつまでも青々
とした緑の葉が凋しぼむことはない
と思います。

『無影樹下永劫しじう清凉』影の
ない木はありません。枝葉が
繁っているのが普通です。これ
は枝葉を払った、人間で言えば

あらゆる煩惱・執着（特に貪瞋
痴）を捨て去った悟りの境地の
こと（諸法無我）を表しており
ます。

悟の境涯まで到達出来ない
としても、仏心に一歩でも近づ
こうとする努力が心を清浄にし
て、何ものにも動じない清々し
い境地になることを示しており
ます。

「無影樹下合同船」（乗合船）
（差別のない世界）



文学の見える風景(十二)

上田三四二「夏行」その五

中西 夏江

P100S104 陽がかげってきた。影を先立てて歩いてきた岸田は、気落ちしたように立止まって香村を顧みた。暗い顔をしていたが、香村はそこにあ

だんもの憂げな岸田弥生ではなく、いつか外泊から戻って来た日の夕べ、由良の駅に出迎えてくれたときの、人形浄瑠璃の若い女の頭をおもわせる健気な面立ちに通うものを見るような気がしていた。

二人は砂浜に忘れられた流木の根に並んで腰をかけ、海を眺めた。海の上の空に秋の到来をおもわせる条雲が増えていた。腕を伏せた形に冠島が沖に浮び、その左手にもう一つ小さな島影があった。大きいのを雄島、小さいのを雌島と呼ぶことも、香村はいつとなく聞き覚えてい

た。鳥影をかすめて、眼の前の青い海に、ボートが一艘迷い込んだようにやって来て、またもときた方へ去っていった。

—略—

香村は手の中の小蟹を放してやった。波打際を離れた乾いた砂の上で、蟹はどちらに行けばよいのか迷っているようだった。岸田は脛を伸ばした。

「こっち、こっち。」

横へそれるのを土踏まず止め、指先で海へ追いやろうとするが、蟹はしばらく手の中に閉じこめられて動かなくなる。つかいつまでもまごついていて、香村は岸田の足のあいだからまた蟹を拾いあげ、波打際に向けて投げかえしてやった。

裸足が砂になじんだのか、岸田弥生は流木を下りて、砂の上

にじかに腰をおろした。足を伸ばし、手で膝のあたりを摩りながら、空を見上げた。

「熱くて、いい気持ちやわ。」

足のまわりに砂を寄せはじめた。

「よしなさい。」

彼女は、幼児がいやいやをするように、かぶりを振って、砂を寄せつづけた。体を曲げ、踵の方にも砂を寄せた。彼女はのろろと手を動かし、それはそうすることを楽しんでいるようにも、また意志のない動きのようにも見えた。砂は足首を埋め、膝の高さに迫り、スカートを押して太腿と腰のまわりにも積まれた。

もっと自分を埋めようとして、彼女は手のとどく範囲の砂を使ってしまったことに気がついた。下の方の砂は湿っていた。「かけて。」

足を動かすまいとするので、ぎこちなく振り向いて、眼で懇えた。

香村は苦笑しながらあたりの砂を掬って、無造作に投げ出された二つの足に注いだ。彼は岸田のゆっくりとしたやり方にならって、両手に掬った砂を底間を漏れる冬の光のように降らせ、掌のなかが空になると、また掬って、それを繰り返した。かすかな音を立てて降る砂の細粒は、延べられた素足を這ってその間隙を埋め、スカートの凹みに降り積ってその包むもののかたちを露わにしていった。

—略—

砂は軟かな丸みを見せる二つの足の甲と小さな貝殻のような爪を並べる十の指をのこして、足首を埋め、膝より下の全体を埋めた。膝頭におわる、スカートの凹みに置く砂も、天幕にたまる雨水のように膿脂色のうすい布地を圧迫しながら、重く、ますます重く、その量を増していった。

岸田弥生は手を後ろについて、空に向うかたちになった。そ

これは砂に埋もれた碇に似ていた。碇はひっそりと、汗ばみながら、孤独なさまにそこに息づいていた。

「由良——」

香村は彼の知っているかぎりの、もつともやわらかいこの土地の名を、胸のうちにつぶやいた。岸田弥生は彼をこの地に繋ぎとめ、彼の揺れやすい心を鎮めてくれた碇だった。香村は晩夏の日過ぎようとすると海辺で、碇になったやわらかい女体をなおも埋めていった。その手はいつくしみをかたどつていたが彼は、一夏の彼女によせる彼の感情を、そこに埋めようとしていた。

終

美しい終結です。

作家は、由良の浜辺にひととき詩情の花を咲かせました。

それは、陽炎にも似たはかない夢のようですが、香村と岸田弥生は、潮の香とやわらかな砂

の中に、温かで何かはじらいのある淡い愛を秘めて、一夏の命をそこに溶融したのです。

当時の素材で、ゆつたりとしていた自然の風物や景観、人々の暮し——を背景に心の彩りが感じら作品です。優しい情趣に読者は、郷愁を覚えます。

この作品の中には、

うつしみはいのち養ふ吹く風も海こえてふく由良浜こは

という歌も記載されています。

私は、曾て京都の歌会の方で氏とご縁があり、氏からこの一首を書き添えた歌集を頂きました。その直筆を由良の里センター広場（氏が一夏を過ごされた研修所跡）の歌碑に刻ませていただきました。

「うつしみ」は「現し身」で現世の人の身。由良に住む私達は青い海の美しさと共に、その海

を吹く風が、ときに、いのちを養う一つの力ともなっているような、そんな爽やかさが感じられる滋味ふかい歌だと思っております。

作品中の登場人物の「岸田弥生」は、架空の人物名で、由良在住の方（過去・現在ともに）とは、全く無関係です。

「夏行冬暦」の一書は、公民館図書として置いてあります。

「文学の見える風景」を今回で終らせて頂きますが、この他に「由良小学校校歌」の優れた詩があります。昭和初期、由良村民の要望に応じて着任された教育家、大垣憲太郎校長と由良神社の宮司、今城力雄氏は共に三十代の若さで、国文学についての造詣深く、その篤い友好の中で作詞されました。（一九三五年）朝日に映える秀峰由良岳と、果てなく広がる大海原のたゆま

ない動きとを高らかに讚美し、これから健やかに伸びゆく子供達への愛郷心が歌われています。生生と力のこもった歌詞は、末長く愛唱されていく心の絵でもありましょう。

由良には、江戸時代の儒学者、教育家の貝原益軒が一六八九年頃に、民俗学者（文化勲章）の柳田国男が一九〇九年に訪れたという記事もあります。

豊かな風土や歴史、伝説等に魅かれて来訪し、去つていった人達には、それぞれ深く或いは浅く結んだ夢がありました。その時代の心、趣がありました。私達は、由良の山や川や海が自然な姿で生き続けることを大事にしたいと思えます。

長い間、大切な紙面を与えて下さいまして有難うございました。拙文をお許し頂き、誤りや不足等をお教え下さいますようお願い申し上げます。

一九九七年三月二十日

駅だより

丹後由良駅 吉田 あい子

北近畿タンゴ鉄道では、JR東西線の開業、新三田～篠山口間の複線電化完成に合わせて、平成九年三月八日(土)に、ダイヤ改正が行われました。

平成九年四月一日(火)からは、消費税率の引き上げに伴う旅客運賃、料金の改定も行われますので、合わせてご理解の程よろしくお願い致します。

昨年の、宮福線電化開業でタンゴデイスカバリー号が登場して、宮福線経由で新大阪まで、西舞鶴を経由して綾部まで、運転されております。丹後由良駅でも、毎日停車しておりますから、少し御案内させていただきます。上り、タンゴデイスカバリー(二二号(綾部行))(二両編成の一両自由席)、丹後由良七時五十八

分発、綾部九時五十分着。のりかえ五分待ちで京都行に接続。綾部八時四十一分発(きのさき二号)→京都九時五十分着。運賃丹後由良→京都間一八九〇円(小人九四〇円)、自由席特急料(小人一六〇円)、西舞鶴間三一〇円(小人一六〇円)、西舞鶴→綾部間は特急料金は要りません。綾部→京都の自由席特急料として九三〇円(小人四六〇円)デイスカバリー号は全車禁煙ですが、喫煙コーナーが設けてありますので、ご利用下さい。タンゴエキスプロローラー二号(京都直通)、丹後由良九時〇五分発→京都十時五十六分着。(三両編成、一号車禁煙席、二号車自由席(禁煙)、三号車喫煙席)。運賃丹後由良→京都間、一八九〇

円(小人九四〇円)、自由席特急料金丹後由良→京都間(二二四〇円(小人六二〇円))。タンゴデイスカバリー四号(綾部行)、丹後由良十時四十二分発→綾部十一時二十五分着。のりかえ十分待で京都行に接続。綾部十一時三十五分発(はしたて四号)→京都十二時三十五分着。タンゴデイスカバリー二四号(綾部行)丹後由良十六時五十一分発→綾部十七時三十三分着。のりかえ十二分待で京都行に接続。綾部十七時四十五分発(きのさき十号)→京都十八時五十四分着。運賃、料金はデイスカバリー号は同額です。下りの方で、タンゴレインボー号(久美浜行)、丹後由良八時二〇分発の列車は急行の扱いとなり、運賃のほかには、二〇キロ以内の宮津、天橋立までは一〇〇円の急行料金でご利用いただけます。タンゴデイスカバリー二二号丹後由良十時四十二分発(天橋立行)、タンゴデイスカバリー二三号(天

橋立行)。以上一本の急行を含む五本の特急が毎日、丹後由良駅に停車しております。座席指定席の御申込も、受付致しますのでご遠慮なく、お問い合わせ下さい。また、連休、夏期、冬期とそれぞれに臨時停車も予定されております。その度にご案内させていただきますので地区の回覧、駅での貼り出しに目を通して下さいます様に、お願い致します。また、風の強い日、列車の故障等で、大変御迷惑をおかけすることが、たびたびあり申し訳ありません。それと、営業時間外で、不都合なことがありましたら、宮津駅、二二局三三〇七の方にもお問い合わせ下さい。今回のダイヤ改正、旅客運賃、料金の改定と合わせて御理解下さいます様にお願ひ申し上げます。



春の交通安全について

森田 浩志

四月は節目の季節であり、皆さんそれぞれ新しい気持ちでいられることと思います。

交通環境においても、積雪や凍結の心配がなくなり、陽気も手伝って「ちよつとドライブ」と言うこともあるでしょう。観光等で交通量も増え、かなりの混雑が予想されます。

交通安全については、既に十分ご理解いただいていることと思いますが、注意しすぎると言うことはありません。それぞれの立場で交通安全を考えてみて下さい。

◎勝手な解釈は事故を招く。

○歩行者の交通安全
交通において一番弱い立場にあるのが歩行者です。道路交通法でも歩行者を保護すべき内容になっています。

しかし、歩行者自身の優先意識は場合によっては非常に危険なものと言えます。「車の方が止まるだろう、よけるだろう」と思っていたところ事故になったケースも多く、死亡事故になることも少なくありません。「自分の身は、自分で守る」と言う気持ちを持つて下さい。

○運転者の交通安全

「優先道路」について皆さんはどの様に理解していますか。優先道路とは、標識で指定されている場合、中央線や車両通行帯が設けられている道路などを言います。また、道路の幅員が明らかに広い道路においても、特別の規制が無い限り優先道路となります。交差点において、他の車両

は優先道路を通行する車両の進行を妨害してはならないと定められています。しかし、これは車両同志の関係だけです。事故の当事者から「どちらが優先か」と言う言葉をよく聞きますが、相手が歩行者である場合もあるのです。また、信号機や一時停止等で規制されている場合でも「自分の方が青だから、相手の方に標識があるから」と言う意識が働きますが、過剰な優先意識は事故を招きます。

法律で定められている優先は、自分の都合の良い方に理解せずに、譲り合う気持ちでいて下さい。

◎事故を防ぐポイントは速度

五〇キロ走行の車は一秒間に約一四メートル進みます。危険に気付いて直ぐブレーキを踏んだとしても、停止するまで約二五メートルを要します。速度が上がれば、停止距離も長くなります。

突然のアクシデントに対処しようと思えば、速度を落すしかないのです。運転者は、横断歩道や交差点等危険の予測される場所では十分に速度を落すことが望まれます。

また歩行者も、車が遠くに見えていても、数秒で迫って来ると言うことを念頭に置いて下さい。

◎「もしかしたら」と考えて

最近の交通事情は多種多様で、毎年多数の死亡事故が発生しています。悲惨な事故を防ぐためには、それぞれが、「もしかしたら事故に」と言う気持ちを持つことが大切なのです。



編集後記

駅道の桜も綻び始め、待っていた春が足早にやって来ました。

公民館だよりNo101号を皆様のお手元にお届け出来るのは、花も散った葉桜のころだと思えます。

平成八年度の公民館事業を振り返って見ますと、その主なものは、宮津市地区対抗駅伝、夏の球技大会、秋の芸能サークル発表会や文化祭行事、冬季の人権学習会、過疎が進む郷土由良の将来を見据えた自治学級や生涯学習講演会、また四部対抗バレーボール大会等です。行事の運営進行に不備な点が見受けられました。その都度、地区の皆様が温かいご理解とご支援、また積極的なご参加を得、おかげで意義深く行事を終了することが出来ました。皆様のご誠意に深く敬意を表し、厚くお礼申

し上げます。

平成九年度事業では、生涯学習に力点をおいた事業等に留意しながら、幅広く楽しく、多くの方々が気軽に参加していただける行事を創出したいと考えています。よろしくご指導下さるよう、お願いします。

山下記

